ヤギ・羊ＥＣＯ大作戦から見えてきたもの

１．はじめに

自分が住む街の 10 年後の姿をいろいろと想像することがある。

街を歩いていると、シャッターが降りたままの商店街、そして、誰も管理する人間がいなくなった廃屋や空き地を数多く目にする。管理する人間がいなくなった庭は雑草で覆いつくされ、街並みに暗い影を落としている。街に活気が感じられず、『しぼみつつある』という感じを受ける。

多くの街で問題になっている現象が、私の住む街『島原市』でも起こっている。10 年後、この街はどうなっているのだろうか。

『ますます寂れているだろうな』というのが、ちょっと前までの私の本音だった。そして、役所の一職員である自分には何もできないだろうな、というのがもう一つの本音だった。

しかし、ある取り組みがきっかけで、その考えは大きく転換した。

今、私は断言できる。『街の未来は変えることができる』と、そして、『そのためにはたった一歩足を踏み出せば良いのだ』と。

２．ヤギ・羊ＥＣＯ大作戦とは

管理する人間がいなくなった私有地は街のあちこちに点在している。また、行政が管理する公有地もその状況は変わらない。維持・管理費の不足のため、十分な管理が行われていない公有地は街の中にたくさんある。そして、地域住民の憩いの場であるはずの『公園』も同じような状況にある。雑草に覆いつくされた公園には無数のゴミが投げ込まれ、誰も寄り付かない荒地になってしまっている。公園が出来た当時のことを知っていると、寂しくなる。公園が寂れている街は、元気が無い。

島原振興局が管理する公園も同じような状況にあった。緑地には雑草が繁茂し、雑草の間には無数のゴミが散乱していた。予算がないため、職員のボランティアによる除草・ゴミの回収が数度試みられたが、面積が広いため、十分な管理を行うことは困難だった。自分たちの手には負えそうにない公園を前にして、危機感すら感じていた。

写真１　公園に繁茂する雑草

そうした中、あることをきっかけに農業高校の先生と知り合い、会話の中で、公園にヒツジを放し、雑草を食べさせてみたら、との提案を受けた。

公園にヒツジを放すなんてアイデアは思いつきもしなかったことなので、最初は半信半疑だった。しかし、他に策もないし、『面白そう』だから、やってみるかとの軽い気持ちで公園にヒツジを放してみた。すると、ものすごい勢いで、公園の草を食べ始めた。

その日からヤギ・ヒツジＥＣＯ大作戦は始まった。

今、島原振興局では一部の公園や公有地の除草を農業高校の先生、生徒たちの協力の下、ヤギ・ヒツジを利用して行っている。また、それを目当てに公園に地域の住民が集まりだした。公園が蘇り始めた。そして、それが街の変化のきっかけになった。

写真２　公園の雑草を食む羊たち

３．ヒツジネットワークの萌芽

公園に放しているヒツジを見た知り合いから、「うちの空き家にヒツジを貸してもらえないか？」との依頼を受けた。

ヒツジを放したところ、その地の景色が変わった。

これまでは誰も足を止めることが無かった廃屋の前が、子供・老人を含む地域住民の憩いの場に変わったのだ。そこからたくさんの笑顔が産まれ、世代を超えた交流が始まり、街の色が変わり始めた。

写真３　廃屋の雑草を食む羊

４．ヒツジが街を変える？

廃屋・空き地を有する住民とヒツジネットワークを形成することができないかと考えている。

数件の廃屋・空き地でネットワークを組み、定期的にヒツジを回していくのだ。それだけで、廃屋の雑草は無くなり、街の色が変わる。

街を歩いていると、あちこちでヒツジが草を食んでいる・・・

想像すると、ワクワクしてくるし、街の景色が大きく変わるように思えてくる。

この時から、10 年後の街の未来はちょっとしたきっかけで大きく変わる、と考えるようになった。そして、多額の税金を使わなくても、ちょっとしたアイデアと行動で街の未来を変えることができるのではと考えるようになった。

写真４　羊と子供たち

大切なことは、とにかくスタートを切ること、そして、たくさんの実績を皆と積み重ねていくことだと考える。そうすることで、最初は小さかった効果が、静かな水面にしずくを落としてできる波紋のように広がっていき、ついには地域の活性につながっていくと期待する。まずは役所から外に出て、たくさんの人と話をしたい。そして、まちの未来ために自分ができることを探していきたい。それを考えることはワクワク心躍ることであるし、それに携われる仕事を選んだことに幸せを感じている。